

概観

【内政・社会】

- ・14日、大統領選挙及び解散総選挙の同時実施
- ・21日、大統領選挙の決選投票の実施

【外政】

- ・大統領選挙及び解散総選挙へのトルコの介入疑惑：ラシュコフ内相による非難、両国の駐在大使の召還
- ・ラデフ大統領の「クリミアはロシア(領)」発言：ウクライナ、欧州委員会及び米国による反応
- ・23日、アレクサンドロフ駐EU大使のEU総務理事会出席：対北マケドニアの立場に変更がない旨発言

【経済】

- ・マリツァ・イースト第2火力発電所の財務状況
- ・ブルガリア・セルビア間複合一貫輸送ハブ建設の合意

ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行 (<https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=EN>) よりご覧になれます。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

内政・社会

◆大統領選挙及び解散総選挙の同時実施

▶14日、大統領選挙及び解散総選挙(今年三度目となる総選挙)が実施されたところ、選挙結果以下のとおり。

▶大統領選挙

- | | |
|-----------------|--------|
| (1)投票率: | 40.50% |
| (2)各候補者得票率 | |
| ラデフ大統領(現職): | 49.42% |
| ゲルジコフ・ソフィア大学学長: | 22.83% |
| カラダヤMRF党首: | 11.57% |
| コンスタンディノフ再生党党首: | 3.92% |
| パノフ最高破棄裁判所長官: | 3.68% |

(3)同投票結果により、21日のラデフ大統領及びゲルジコフ・ソフィア大学学長による決選投票が決定した。

▶国民議会選挙

- | | |
|-------------------|--------|
| (1)投票率: | 40.23% |
| (2)各党得票率 | |
| 「変革を継続する」(変革連合): | 25.67% |
| GERB・UDF: | 22.74% |
| 権利と自由のための運動(MRF): | 13.00% |

ブルガリアのための社会党連合(BSP):

10.21%

「こんな国民もいる」(TISP):

9.52%

民主的ブルガリア(DB):

6.37%

再生:

4.86%

(なお、「立ち上がれブルガリア!今いくぞ」(SUBG)は、4%の足切りを下回る2.29%得票という結果になった。)

◆大統領選挙決選投票の実施

▶21日、大統領選挙決選投票が実施され、ラデフ大統領の再選が決定したところ、選挙結果以下のとおり。

- | | |
|----------------------------|--------|
| (1)ラデフ大統領(現職): | 66.72% |
| (BSP、変革連合(中道)、TISP、DB等が支持) | |
| (2)ゲルジコフ・ソフィア大学学長: | 31.80% |
| (前与党GERB(中道右派)等が支持) | |
| (3)支持候補なし: | 1.48% |

◆北マケドニア大型バス事故

▶23日午前2時頃、40名以上が犠牲となった、北マケドニアの大型バスの事故が発生した。

▶同日朝、ザエフ北マケドニア首相は、外相と共にブルガリアに到着し、負傷者が搬送されたピロゴフ救急病院を訪問し、後刻、ヤネフ首相及びザエフ北マケドニア首相は記者会見を実施した。

▶なお、後刻、閣僚評議会は24日を「国喪の日」とすることを決定した。

◆組閣に向けた連立協議開始

▶23日、変革連合の呼びかけにより、潜在的連立相手である TISP、BSP 及び DB が参加する組閣へ向けた事前協議が開始された。

▶初日のテーマはエネルギー、2日目は保健、業、教育並びに電子政府、3日目は内務、環境、地域開発並びに文化、4日目は労働・社会問題、観光並びにスポーツ、及び最終日の5日目は国際関係及び財務についての協議が行われた。

外交

1. ブルガリア・米関係

◆ホカンソン米国州兵総局局長のブルガリア訪問:エフティモフ参謀総長との会談

▶4日、エフティモフ参謀総長は、ブルガリア訪問中のホカンソン米国州兵総局局長(将軍)と会談し、ブルガリア軍及び州兵の能力を強化するための二国間協力につき協議した。

▶今次会談では、ブルガリアと米国の工兵部隊の共同作業により戦闘訓練に役立つ軍事訓練場のインフラが改善されていると指摘された。

2. ブルガリア・EU関係

◆ペカノフ副首相(EU基金担当)のEU総務理事会出席

▶18日、ベルギー訪問中のペカノフ副首相(EU基金担当)は、EU総務理事会に出席した。

▶今次会合では、復興、持続可能性、デジタル移行及び結束に対する結束政策プログラムの貢献につき協議された。

▶同副首相は、「ブルガリアは、2021-27年の間にEU基金から110億ユーロを獲得する予定

であり、これは、企業や地域社会にとり、非常に重要な資金となる。」と述べた。

◆ストエフ外相のEU外務理事会出席

▶ストエフ外相は、ベルギーで開催されたEU外務理事会に出席した。

▶ストエフ外相は、ポーランド・ラトビア・リトアニア・ベラルーシ国境における現在の緊張の高まりを容認出来ないと指摘し、ポーランド・ラトビア・リトアニアとの連帯を宣言した。

3. ブルガリア・トルコ関係

◆大統領選挙・解散総選挙へのトルコの介入疑惑

▶18日、ラシュコフ内相は、14日に実施された大統領・国民議会選挙において、トルコがブルガリアの内政に干渉したとして非難した。同非難は、トルコ国内のメディアが、「トルコ人が大統領候補に」等の表題の下、在ブルガリア・トルコ人の「ブルガリア人への同化」を防ぐためには、トルコ人による投票が必要と呼びかける等している状況を背景としたもの。

▶同日、ブルガリア外務省は、セキゾク駐ブルガリア・トルコ大使を召喚し、14日に実施された、及び21日に実施される選挙につき協議した。

▶同会談において、同トルコ大使は、ブルガリア外務省から、トルコの政治指導者、外国組織及び報道機関が、「ブルガリアにある特定の政党」を支持するよう国民に働きかけていることについて申し入れを受けた。

▶後刻、チョラコフ駐トルコ・ブルガリア大使は、ブルガリアの当該主張につき説明を求められ、トルコ外務省に召喚された。

▶トルコ外務省は、「トルコによる選挙の介入、有権者の操作、及びブルガリア内政への干渉に関するブルガリア側の主張は、全くの事実無根である。」と述べた。

◆ストエフ外相のチャヴシュオール・トルコ外相との電話会談

▶22日、ストエフ外相は、チャヴシュオール・トルコ外相と電話会談を行った。

▶チャヴシュオール・トルコ外相は、ブルガリアにおいて、通常の政府が間も無く樹立されることを期待しており、ブルガリアとの二国間及び多国間レベルにおける実りある有意義な対話が継続されることを確信していると述べた。

4. ブルガリア・ウクライナ関係

◆大統領選挙のテレビ討論におけるラデフ大統領の「クリミアはロシア」発言

▶18日に行われたゲルジコフ候補とのテレビ討論において、ラデフ大統領は、「クリミアに関する(西側の)制裁は機能していない…現実的な政策が必要である。何であれ、現在、クリミアはロシアである。」と述べた。その後、同大統領は、「クリミアはロシア」という表現を避けつつ、「現在、クリミアはロシア」と、「事実上の」と「法律上の」所属を区別する表現に改めた。

▶19日、ラデフ大統領の当該発言を受け、ウクライナ外務省は、コジャバシエフ駐ウクライナ・ブルガリア大使を召喚し、同発言が国際的に承認された国境内におけるウクライナの主権及び領土保全を支持する旨のブルガリアの公式見解とは大きく異なると説明した。

▶また、同日、スタノ欧州委員会首席報道官は、記者会見において、ラデフ大統領の当該発言に係る質問に対し、「クリミアはウクライナである」と述べ、同大統領の発言への指摘を避けつつ、クリミアに関するEUの立場を想起した。

▶22日、当地米大使館は、ラデフ大統領の当該発言に対する声明を発出し、同発言に深い懸念を米国が抱いていることを説明した。

▶後刻、大統領府は、プレスリリースを発出し、「ラデフ大統領は、クリミアの併合が国際法に違反していると繰り返し主張してきた。当該主張は、全ての国際機関におけるブルガリアの明確な立場である。法的な観点から、クリミアは、ウクライナに属しており、ブルガリアは、ウクライナの主権及び領土保全への支持を繰り返し表明

してきた。同時に、ラデフ大統領が選挙討論で強調したように、「現在」、クリミアはロシアに支配されており、当該問題が武力で解決できないことは明らかである。討論会のとおり、同大統領は、国際関係、特にブルガリア及び同国の同盟国の安全保障に直結する、黒海地域の緊張に繋がる当該事実的状况に懸念を幾度も表明している。同大統領は、同地域、特にウクライナ東部での緊張がエスカレートする可能性への懸念を繰り返し表明し、対立を緩和しつつ、紛争の平和的解決のための条件を整えるための信頼醸成及び対話構築のための適切な措置を希求する。」と説明した。

5. ブルガリア・北マケドニア関係

◆EU総務理事会におけるアレクサンドロフ駐EUブルガリア大使の発言

▶23日、EUの総務理事会において、アレクサンドロフ駐EUブルガリア大使は、北マケドニアとのEU加盟交渉開始に反対するブルガリアの立場に変更がない旨述べた。

◆ラデフ大統領のヴァールヘイ欧州委員会委員(近隣・拡大政策担当)との電話会談

▶25日、ラデフ大統領は、ヴァールヘイ欧州委員会委員(近隣・拡大政策担当)と電話会談を行った。

▶ラデフ大統領は、ブルガリア・北マケドニアの二国間関係が外部の影響を受けてはならず、双方が北マケドニアのEU加盟を推進し得る開かれた対話にコミットすべきであり、同対話の焦点は、北マケドニアにおけるブルガリア系少数民族の権利の尊重、ヘイトスピーチの永久的な根絶、及び北マケドニアにおけるブルガリアの歴史・文化遺産の尊重等でなければならない旨述べた。

◆ラデフ大統領のザエフ北マケドニア首相との電話会談

▶30日、ラデフ大統領は、ザエフ北マケドニア首

相と電話会談を行った。

▶双方は、ブルガリア人であると自己認識している北マケドニア国民の権利や北マケドニアのEU加盟の展望等につき協議し、両国間における相互信頼の構築及び未解決問題の解決にとり、ハイ・レベル対話が重要であることに同意した。

◆ラデフ大統領のシャレンベルク・オーストリア外相との電話会談

▶30日、ラデフ大統領は、シャレンベルク・オーストリア大統領と電話会談を行った。双方は、北マケドニアのEU加盟及び両国における新型コロナウイルス対策につき協議した。

▶ラデフ大統領は、ブルガリア・北マケドニア間の生産的な対話が二国間の係争を解決するための不可欠な手段であり、具体的な成果を期待する旨のブルガリアの立場を説明した。

◆ストエフ外相のヴァールヘイ欧州委員会委員（欧州近隣政策・拡大交渉担当）及びアルバレス・スペイン外相との会談

▶29日、スペイン訪問中のストエフ外相は、ヴァールヘイ欧州委員会委員（欧州近隣政策・拡大交渉担当）及びアルバレス・スペイン外相と会談した。

▶同会談の焦点は、北マケドニアのEU加盟交渉開始の展望に当てられ、ブルガリア側は、北マケドニアにおけるブルガリア系少数民族の権利の保証、及び2017年の善隣友好条約の履行を確約するよう求めつつ、北マケドニアとの問題に積極的に取り組んでいると説明した。

6. その他

◆ヤネフ首相のCOP26出席

▶1日、ヤネフ首相は、英国開催の第26回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP26）の世界リーダーズ・サミットに出席した。

▶同首相は、「ブルガリアは、パリ協定のコミットメントを果たす決意を固めており、2050年までに気候中立性を達成し、更に、EUの法律に明

記されている、2030年までに温室効果ガスの排出量を55%削減する旨の野心的な目標に取り組んでいる。」と述べた。

◆ヨルダノフ国防副大臣の南東欧国防相会合（SEDM）出席

▶4日、北マケドニア訪問中のヨルダノフ国防副大臣は、南東欧国防相会合（SEDM）に出席した。

▶SEDM議長を務めるヨルダノフ国防副大臣は、「我々は、安全保障上の課題について協議し、SEDMイニシアティブの目標を達成させ、又、南東欧の平和と安定を支援し、更に、西バルカン諸国のEU・NATO加盟に向けた努力を継続する。」と述べた。

◆ストエフ外相の南東欧協力プロセス（SEECF）外相会合の出席

▶5日、ストエフ外相は、南東欧協力プロセス（SEECF）外相会合にも出席した。

▶同外相は、西バルカン諸国に対するベルリン・プロセスの成果の影響を指摘しつつ、善隣友好関係が地域協力及びEU加盟プロセスの基本原則であると述べた。

▶なお、同会合に先立ち、ストエフ外相は、オスマニ北マケドニア外相と二国間会談を行った。

◆ラデフ大統領のドゥダ・ポーランド大統領との電話会談

▶23日、ラデフ大統領は、ドゥダ・ポーランド大統領と電話会談を行った。双方は、EU近隣地域の安全保障・治安情勢及び東欧のEU域外国境における移民の圧力につき協議した。

◆ストエフ外相のASEMへの出席

▶25日、ストエフ外相は、第13回アジア欧州会合（ASEM13）に出席した。

▶同外相は、欧州・アジア間の持続可能な連結性は、平和を構築しつつ、紛争を解決するための重要な要素であると述べた。

▶また、同外相は、EUのインド太平洋戦略が同地域のパートナーとの連携を強化するために新たな道を開くものであると指摘した。

◆パナヨトフ国防相のブカレスト・ナイン国防相会合の出席

▶25－26日、ルーマニア訪問中のパナヨトフ国防相は、ブカレスト・ナイン(B9)国防相会合で演説し、NATO東翼における脅威・課題をNATOの戦略概念に記載すべきだと述べた。

▶同国防相は、新たなNATO軍体制を構築する際には、黒海地域NATO海軍司令部の海軍コ

ンポーネントを接受する旨のブルガリアの願望・準備を考慮に入れるべきであると述べた。

◆ストエフ外相の地中海連合地域フォーラム及びEU南部近隣大臣会合の出席

▶29日、スペイン訪問中のストエフ外相は、第6回地中海連合地域フォーラムに出席した。

▶ストエフ外相は、「地中海諸国間の経済・貿易関係の発展及び促進は、新型コロナウイルスの感染拡大による社会・経済的問題に対処する上で鍵となる。」と述べた。

▶また、同日、ストエフ外相は、EU南部近隣大臣会合にも出席した。

経済

1. 経済政策、産業

(1) エネルギー

◆マリツァ・イースト第2火力発電所の財務状況

▶電力販売による収益の大幅増加にも拘わらず、マリツァ・イースト第2火力発電所の財務状況は、依然として危機的状況にある。今年1月－9月までの財務報告書によれば、7月の最大稼働開始後も、同発電所は、1億8215万レヴァ(約9176万ユーロ)の損失を計上している。なお、4分の1の能力で稼働していた昨年同期において、同発電所は、1億9140万レヴァ(約9570万ユーロ)の損失を計上しているが、2021年第3四半期時点の損失(約1億8200万レヴァ)は、同年上半期末時点の損失(約2億4700万レヴァ)に比べて縮小した。

▶マリツァ・イースト第2火力発電所は、電気料金が法外に高い場合でも、相当程度の競争力を失ったままである。昨年、同発電所は、新型コロナ禍による制限により価格が記録的低水準であったため、電力を販売することが出来なかった。今年の6月以降、資源変換型発電の電力が急激に値上がりし、7月の平均値は185.6レヴァ/MWh、8月は218.17レヴァ/MWh、9月は244.5レヴァ/MWhとなった。

▶同発電所の収支が改善されない理由としては、電気料金の高騰に加えて、二酸化炭素排出量の価格の上昇が挙げられる。温室効果ガス排出枠の購入は、マリツァ・イースト第2火力発電所のコスト構造の中で最大の項目であり、発電量及び二酸化炭素排出量の増加に伴い発電コストが増加しており、9月以降、同排出枠の価格は前月比で20%も上昇した。同発電所の累積損失は、11億5000万レヴァ(5億7500万ユーロ)に昇り、又、同発電所の負債は、第3四半期に1億7000万レヴァ増加し、16億6000万レヴァ(8億3000万ユーロ)に達している。

(2) 運輸

◆ブルガリア・セルビア間複合一貫輸送ハブ建設の合意

▶25日、セルビア訪問中のアレクシエフ運輸相とモミロビッチ・セルビア建設相は、実務協議を開催し、ブルガリア・セルビア国境に複合一貫輸送のハブ建設が合意された旨発表した。

▶ブルガリアとセルビアは、ドラゴマン－ニシュ輸送区間を欧州横断輸送ネットワーク(TEN-T)に追加するよう、EUに対して共同で提案する予定であり、アレクシエフ運輸相は、「ブルガリアは、ソフィアからドラゴマンまでの区間をTEN-Tの主要なネットワークに含めるため多大な努力

を行っており、現在、当該経路沿いに道路及び鉄道のインフラを構築する契約が締結されている。ブルガリアにとり、欧州への最短距離であるニシュへの区間延長を協議するため、ブルガリア・セルビア・EUの三者間会合を開始させる予定である。」と述べた。

(3)貿易

◆ブルガリア・ロシア企業間ビジネス会議の開催

▶9日、ブルガリアとロシアの企業間でビジネス会議が開催された(ビデオ会議形式)。同会議は、ブルガリア商工会議所(BCCI)の協力の下、モスクワ輸出センターが主催した。なお、同会議には、建設、情報技術、機械・設備の製造、消費財、家具、繊維分野等で活躍するロシア企業20社が参加した。

▶トドロフBCCI事務局長は、「ロシアは、ブルガリアの主要な対外経済パートナーの1つであり、2020年には、ブルガリアの対外貿易の4%を占め、2021上半期には、前年同期比で輸出が1.3%減少し、輸入が22.8%増加したため、総貿易量が18.8%増加した。ブルガリア・ロシアの二国間貿易には、様々な商品やサービスの開発・多様化、及び、ブルガリアにとりマイナスである貿易収支の改善に大きな可能性がある。」と述べた。

▶グロモフ駐ブルガリア・モスクワ文化・ビジネスセンター所長は、「対外貿易全体における4%という数字は、ブルガリア・ロシアのビジネス関係にとりシェアが小さ過ぎであり、今後、両国は協力し、貿易を拡大していこう。ブルガリア企業は、モスクワ輸出センターへ依頼すれば、1日-2日以内にロシアのパートナー企業の連絡先を知ることが出来、優れた可能性と生産能力を備えた、実績のある企業が選出されることから、ブルガリア側からの需要を満たす最も有望な企業が紹介される。モスクワ輸出センターは、ブルガリア企業のロシア市場への窓口になる可能性がある。」と述べた。

▶アルチュシ駐ブルガリア・ロシア商工会議所代表は、「ブルガリア市場は、EU市場での経験が無い企業にとり、追加の要件があるため特殊であるものの、これは、化学及び機械工学分野でロシアからの供給が増加していることから、ロシア企業の障害ではない。ブルガリアとの貿易関係において、ロシア企業がEUの要件に備えることは重要である。」と述べた。

2. 三海域イニシアティブ

◆三海域イニシアティブ投資基金(3SIIF)に関する小規模カンファレンスの開催

▶3日、三海域イニシアティブ(3SI)に関する、「Equity for Infrastructure」と題されたハイブリッド形式の小規模カンファレンスが開催され、三海域イニシアティブ投資基金(3SIIF)が紹介された(ブルガリア商工会議所(BCCI)及びBCCI投資評議会がブルガリア開発銀行(BDB)と協力して開催)。

▶3SIIFは、運輸、通信及びエネルギー分野への投資確保を目的とした、中東欧地域に特化した新たなファンドであり、プロジェクトにつき5,000万から2億5,000万ユーロの資本投資が可能である。アンバー・インフラストラクチャー・グループが3SIIFの独占的な投資顧問である一方で、3SIIFは、3SI諸国の国家開発金融機関が基礎にある。

▶キリヤコフ経済副大臣は、「自分(キリヤコフ経済副大臣)は、3SIIFのようなプログラムが、3SIに参加する全ての国家に多大な貢献を果たすと確信しており、又、三海域地域における全ての人に平等な機会をもたらすことを期待する。3SIIFは、3SIが直面する課題を財政的に支援することを使命として、2019年に設立された。BDBは、2,000万ユーロの資金を拠出し、3SIIFのAクラス株主となっている。」と述べた。また、アラバジエフBDB専務理事は、「3SIIFは、ブルガリア経済にとり強力な手段であり、持続可能なプロジェクトを支援し、運輸、通信及びエネルギー分野のインフラに対して地域的影響を及ぼ

す解決策を提供することを目的としている。BD Bは、Aクラス株主として、3SIを全面的にコミットメントしている。」と述べた。

▶フィリップス・アンバー・インフラストラクチャー・グループ投資ディレクターは、「3SIIFが取り組んでいる重要なことの一つは、インフラの質・利用可能性に関する、新旧EU加盟国間の格差を是正することであり、現時点において、同格差は、5,000億ユーロにも昇る。3SIIFは、政治的に触発されたものであるが、商業的に推進されている。3SI諸国のGDPは、合計で2.1兆ユーロであり、これは、EU全体のGDPの15%に相当する。三海地域は、欧州で最も急速に成長している地域の一つであり、平均予測GDP成長率は、EUの他の地域を上回っている。3SIIFは、三海地域全体の連結性及びと協力関係を向上させつつ、最先端のインフラを拡大することにより、経済発展を加速させ、供給に不可欠な長期資産を支援する投資を対象としている。3SIIFでは、統合性及び効率性を高めつつ、持続可能な経済発展を促進することを目的として、道路や鉄道、港湾、空港等の運輸インフラへの投資の重点分野が設定されている。運輸インフラへの投資必要額は、2,900億ユーロと推定される。エネルギー分野への投資では、供給の安定性の強化、エネルギー源の多様化及びエネルギー転換の支援を目的とし、再生可能エネルギー源、液化天然ガス、及び関連する供給ネットワークに、デジタル分野への投資では、中東欧のデジタルの未来を支える、最先端のネットワーク・インフラ及び実証済みの技術を開発するため、光通信ネットワークや通信ネットワーク並びに通信局、データセンター等に重点が置かれる。」と述べた。

◆投資家・金融フォーラムにおける 3SIIF 関係者の発言

▶22日、ブルガリア及び地域最大級の投資・金融フォーラムである第10回「投資家・金融フォーラム」が開催され、3SIIF 管理委員会のメンバ

ーであるイリンゴルスキ氏が出席した。

▶同氏は、「戦略的インフラへの大規模投資無しに、システムや世界危機からの脱出に成功した歴史上の先例を承知していない。三海地域に位置する新EU加盟国には、発展に係る類似の特徴が見られる。同地域は、EUの領域の30%、人口の20%を占め、又、GDPの10%を創出していることから、連結性に係るインフラの構築は特に重要である。」と述べた。

▶また、同氏は、「3SIIFは、国内外の民間資本を惹きつけ、旧EU加盟国に対する遅れを挽回することを目的としている。3SIIFは、通常のインフラに加え、これまで十分に注目を集めていなかったイノベーション・インフラにも関心を有する。それ故、三海地域イニシアティブ(3SI)は、投資の促進のため、主に民間資本を惹きつけるイノベーション・フォーラムという新たなメカニズムの構築に取り組んでいる。現在、3SIIFは、イノベーションの主要な推進力である公的資本に加えて、三海地域を飛び越えてアジアに流れている民間資本を誘致しようとしている。投資家は、実際に投資を検討するに当たり、経済協力開発機構(OECD)にブルガリアが加盟するかに関心がある。また、3SIIFの目的には、インフラやイノベーションの開発プロジェクトに年金基金や社会的投資家を関与させる等、地元投資家の支援も含まれており、これにより、外国人投資家のブルガリアへの誘致にも繋がるだろう。」と述べた。

3. その他

◆欧州委員会による2022年度分 REACT-EU の拠出金額の決定

▶24日、欧州委員会によれば、2022年度分のブルガリア向け REACT-EU の拠出金は、約1億4000万ユーロになるという。現在、EU加盟国は、医療、ビジネス及び社会的弱者支援に対する強靱性を高めると共に、ハイテク化された且つ持続可能な、結束復興のためのグリーン及びデジタル分野の優先事項に貢献する復興策を実行するための資金約110億ユーロが利用

可能である。

▶REACT-EU の拠出金は、新型コロナウイルス感染拡大の社会・経済的影響を完全に把握するため、2つのトランシェに分けて投入される。なお、同拠出金の配分は、各国のGEP、失業率及び若年層の失業率に基づく。欧州委員会は、「ブルガリアでは、新型コロナウイルスの感染拡大の最前線で従事するスタッフに賃金が補填され、又、高齢者や障害者が自宅で医療・社会サービスを受けるようになる。」と説明した。

▶REACT-EU は、NextGenerationEU の一部であり、2021年と2022年の結束政策プログラムに506億ユーロの追加資金を提供した(2023年末まで使用可能)。REACT-EU の目標は、コロナ禍からの社会・経済的復興を支援するため、医療、ビジネス及び社会的弱者に支援することへの強靱性及びコロナ禍からの復興を促進することである。当該拠出金は、スマート且つ持続可能な復興のためのグリーン及びデジタル分野の優先事項に貢献するものである。

▶REACT-EU では、2021年に向けた約400億ユーロの資金が利用可能であり、その92%が既に投資プログラムに割り当てられている。欧州委員会の説明によれば、同資金は、主にコロナ禍発生時に講じられた緊急措置及び長期的な当該危機からの復興との間のギャップを埋めるために用いられるという。

◆「ブルガリア・セルビア越境協カプログラム2014－2020」会合の開催

▶25日、第9回目となる「ブルガリア・セルビア越境協カプログラム 2014－2020」の会合が開催された。同会合において、議長を務めたストイメノヴァ地域開発・公共事業副大臣は、新たなブルガリア・セルビア越境協カプログラムの下で実施されるブルガリア・セルビア間の共同プロジェクトに3810万レヴァ(約1905万ユーロ)の投資が行われると述べた。

▶同プログラムは、技術の近代化、生産の最適化、デジタル化、授業員の訓練及び新たな市場

への参入のため、中小企業に資金を拠出する。同副大臣によれば、国境を跨がる自然災害に対処するための対策の実施に、多額の資金が提供される予定で有り、これには、行動計画の作成及び関係機関、ボランティア並びに一般市民向けの訓練・練習が含まれるという。

▶また、同会合において、同副大臣は、前期の同プログラムにより達成された結果を発表し、3740万レヴァが105のプロジェクトに拠出され、この内79のプロジェクトが成功裏に完了し、又、これまでに総割当額の70%に当たる2370万レヴァが受益者に支払われたと述べた。

ブルガリア内政・外交の動き（11月）

在ブルガリア大使館

1（月）	☆ヤネフ首相のイギリス訪問：国連気候変動枠組条約国会議（COP26）出席
2（火）	
3（水）	
4（木）	☆ヨルダノフ国防副大臣の北マケドニア訪問：南東欧国防相会合（SEDM）出席
5（金）	ストエフ外相の南東欧協カプロセス（SEECP）外相会合の出席（テレビ会議）
6（土）	
7（日）	
8（月）	
9（火）	
10（水）	
11（木）	
12（金）	
13（土）	
14（日）	大統領選挙及び解散総選挙の実施
15（月）	
16（火）	
17（水）	
18（木）	☆ペカノフ副首相（EU基金担当）のベルギー訪問：EU総務理事会出席
19（金）	
20（土）	
21（日）	大統領選挙決選投票の実施
22（月）	ストエフ外相のチャヴシュオール外相との電話会談
23（火）	組閣に向けた連立協議の開始 アレクサンドロフ駐EUブルガリア大使のEU総務理事会出席 ラデフ大統領のドゥダ・ポーランド大統領との電話会談
24（水）	
25（木）	ストエフ外相のアジア欧州会合（ASEM13）出席（テレビ会議） ☆パナヨトフ国防相のルーマニア訪問：ブカレスト9（B9）国防相会合の出席 ラデフ大統領のヴァールヘイ欧州委員会委員（近隣・拡大政策担当）との電話会談
26（金）	
27（土）	
28（日）	
29（月）	☆ストエフ外相のスペイン訪問：地中海連合地域フォーラム出席及びヴァールヘイ欧州委員会委員（近隣・拡大政策担当）及びアルバレス・スペイン外相との会談
30（火）	

★来訪 ☆往訪

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局、中央銀行、財務省（日本）貿易統計)

